

分担研究報告書

油症検診受診者における角膜内皮細胞

研究分担者 上松 聖典 長崎大学病院眼科 講師

研究協力者 北岡 隆 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 眼科・視覚科学分野 教授

研究要旨：角膜内皮細胞の減少は難治疾患である水疱性角膜症の原因となる。油症における角膜内皮細胞密度の変化を調査し、油症および血中 PCB、PCQ、PeCDF 濃度の関連を調査する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で調査できなかった。

A. 研究目的

角膜の内側は1層の角膜内皮細胞層で覆われている。角膜内皮細胞にはNa/Kポンプが存在し、房水が角膜に浸透し浮腫を生じるのを抑えている。しかしその機能が損なわれると、水疱性角膜症を生じ、角膜移植が必要となる。今回の研究では油症検診受診者における角膜内皮細胞密度を調査し、ダイオキシン類と角膜内皮細胞数の関連を検討する。

B. 研究方法

長崎県油症検診の3地区すなわち、玉之浦、奈留、長崎地区において2020年度油症検診の眼科部門を受診し、細隙灯による前眼部観察およびスペキュラーマイクロスコープによる角膜内皮細胞密度の測定が可能であった油症認定患者を対象とし、角膜内皮細胞密度とCB、PCQ、PeCDF濃度の関連を調査する予定であった。

(倫理面への配慮)

本研究のデータ解析においては、個人が特定できるようなデータは存在しない。

C. 研究結果

新型コロナウイルスの影響で検診を行うことができず、調査を行うことができなかった。

D. 考察

結膜色素沈着やマイボーム腺に変化を認める油症患者では、涙液層が角膜の正常形態・代謝維持に影響している可能性もある。油症により角膜内皮細胞数が減少するのか、来年度以降に調査を行いたい。

E. 結論

油症における角膜内皮細胞密度の変化を調査し、油症および血中ダイオキシン類の関連を調査する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で調査できなかった。

F. 研究発表 なし**G. 知的財産権の出願・登録状況** なし